

「これからの市民と市役所の関係はどうあるべきでしょう。」

「市民は納税者で、税金の活用は行政の役目という分業の発想がある。分業の領域を守るのは人間の習性だけど、自分の領域を踏み出して、その違いを尊重して、互いの意見を述べ合うべきだ。これからは、踏み出さざるを得ないという予感がある。既成の価値観や社会構造では対応できなくなつて、そう考えざるをえない人が増えてこざるをえない状況になつている。」

市民には飲み屋での議論のように、おおらかで、健全で、開かれた議論があるが、市議会の議論は低調だね。密閉空間で話し合うことに対して、こんなもんだらうというあきらめもある。その閉ざされた空間から、外に踏み出せるかどうか。あちこちのグループが殻を破れよ、という気持ちだ」

「役所もその壁を乗り越えな」といけません。

「例えば、役所のアンケートで、回答しなかった人にも、職員は実際に会つて、肌で感じる必要があるはず。どうしたら心を

「ベンチャークラブは、仕事を持つ女性が、まちづくりに取り組む奉仕団体ですね。」

「自分たちの暮らすまちのために役に立ちたい。そのために何ができるかを考えて、福祉や教育の分野でのボランティア活動や市民に楽しんでもらえるイベントを企画しています。」

クラブに参加したのは、友だちに誘われてクラブ主催の行事に参加したのがきっかけです。わたしの場合、留萌出身でもなく、職場以外に知り合いがない生活をしていました。仲間といっしょに考えて、行動すると、達成感とか満足感が得られるし、連帯感も生まれます」

「70歳以上の一人暮らしのお年寄りに、毎年お誕生日プレゼントを贈る活動を続けています。」

「訪問すると、耳が遠い人で、カギをかけずに住んでいるお年寄りがいて、最初は、不用心だなと驚きました。でもそれって、地域に対する安心感があるのかもしれないなと思います。」

プレゼントを喜んでくれたり、お礼を言いたいということも聞こえてくると、嬉しいですね」

「殻を破って、踏み出してみろ」

開いた関係を作ることができると考えてみる。一方の満足感ばかりはでなく、他方の満足感も得る努力が必要だ。

そして役所は仕事の限界を分かつた方がいい。何が課題か分からないと、次につながっていかなくなる」



田中 円章(たなか・えんしょう)さん
サハリン(樺太)生まれ。高校教師として、昭和41年、留萌工業高校の開校とともに赴任。以来、留萌千望高校に変わった平成10年春まで在職。現在は、妻と共に塾を営む。

「家庭や地域での関わり方は変わっていますか?」

「団塊の世代は、親父や教師の権威を拒否した。その世代が自分の家庭を持ったとき、話の分かる親になろうとした。その結果、年齢差のめりはりのない、困った社会状況を生んだ。」

子供は、大人社会の価値観にぶつかり、否定し、そのハードルを越えていくはず。でも、今は『関係ない』で片付けてしまつて、世代間に共通の土俵がなくなつている。

かつては隣近所のおじさん、おばさんが、気軽につきあえる関係にあつたのに、マイホーム主義や核家族化で、壁ができて、遠慮してしまつていいる。その垣根を取り払う必要がある。

江戸時代以降、為政者(政治を行なう者)に都合のいい、勤勉で忠実な住民像ができた。明治憲法から新憲法に変わつても、役所の意識は根底では変わっていない。その制度疲労が、今起きている。

喝

自分があずましくなれば、他の連中もあずましくなる。その根っこは何かということだ。ひとりができることはたかが知れている。人間には限界があることも知るべきだ。

そして、よりおおらかに、自然体で生きることだな」

遊び仲間がいれば楽しかった。でも、それぞれ家庭を持ち、生活環境が違つてくると、遊びだけの付き合いは難しくなります。クラブの活動で、友だちや知り合いが増えて、ひとりでは考えてもみないこと、関わりのないことでも、考えてみたり、関わつてみたりして、人の輪が広がり、自分の世界が広がつていくなど感じます。わたしにとつては、自分を磨くところですね。

でも、仲間の結束が固くなると、外部からは入りずらくなります。輪を広げるために、グループの壁をなくすことも必要です。

一方で、自分から入つていく積極性も必要です。利尻町にいたときに、『島の人は自分から入つていけば拒まないよ』つて言われたことがあります。

何かやりたいと思つていても、待つているばかりでは前に進めません。ときには『人からどう思われようか関係ない』という聞き直りも必要かな」



妹尾 郁子(せお・いくこ)さん
真狩村生まれ。道職員として、平成9年から留萌支庁勤務。平成12年から留萌ベンチャークラブ(会員8名)に所属し、平成13年から会長に就任。

「日常で地域との関わりは?」

「職員宿舎は、単身赴任や独身者が多く、職場以外でのつながりもないので、周りの清掃や草むしりとなると、『みんな』と言われても、参加しないのが現実かな。家族がいて、日常の付き合いがあれば、参加できるの

「日常で地域との関わりは?」

「職員宿舎は、単身赴任や独身者が多く、職場以外でのつながりもないので、周りの清掃や草むしりとなると、『みんな』と言われても、参加しないのが現実かな。家族がいて、日常の付き合いがあれば、参加できるの

「日常で地域との関わりは?」

「職員宿舎は、単身赴任や独身者が多く、職場以外でのつながりもないので、周りの清掃や草むしりとなると、『みんな』と言われても、参加しないのが現実かな。家族がいて、日常の付き合いがあれば、参加できるの

「日常で地域との関わりは?」

「職員宿舎は、単身赴任や独身者が多く、職場以外でのつながりもないので、周りの清掃や草むしりとなると、『みんな』と言われても、参加しないのが現実かな。家族がいて、日常の付き合いがあれば、参加できるの

「人間はひとりでは、やはり寂しい」